

毎日歌壇

伊藤 一彦 選

軽やかに転職決めたトビウオを横目に見てる
深海魚として 仙台市 五十嵐 舞
△評▽年収などをあげようとして転職する
人を「トビウオ」、一方今の職場にとどま
る自分を「深海魚」と絶妙な比喻で歌う。
「熊の胆は仕留めた者が貰うもの」父にマタ
ギが諭したという 由利本莊市 佐々木 静江
△評▽かつて父から聞いた思い出。だがマ
タギはにこやかに父に熊の胆を差し出したと。
長袖のパジャマはどこと君が聞く毎年聞くね
と毎年笑う 福岡 中村まゆみ
ポケモンの名前はひとつも言へないが零余子の
在りか知つてゐる音子 宮崎市 上米良 綾子
しゃがみ込み野良のサビ猫と目を合わすお互いな
んにももっていないな 東京 藤沢 静二
明日というビックリ箱は危険物ぞろりと抱い
て小春を生きる 京都市 根来美知代
列並び心を先に守るためリュックを前にさげ
たるラッシュ 松戸市 小林 里純
真夜過ぎて帰るし高三揃えたる白のナイギが
大人びており 河内長野市 寺田 愛子
小綺麗な部屋で生栗剥いていく獣と同じ音立
てながら 名古屋 屋 河
心臓のメトロノームはプレストカエレベータ
ーにあなたとふたり 札幌市 住吉和歌子

米川千嘉子 選

実験を続ける息子よ 「母性」とは何かと知
りたく汝を産みけり 坂戸市 納谷香代子
△評▽息子は研究職らしいが、そこから三
句以下へ展開するのに驚き共感する。「母
性」について答えは出たのだろうか。
横浜の出ではないのに「じゃん」付けて明るく
相談 墓地はどうする 幸手市 中村 早苗
△評▽真面目に話すとリアルになって嫌
だ。だから「じゃん」というのが楽しい。
旅行靴ひとつにきみは隔てられいつものよ
うに腕も取れない 東京 遠野 鈴
亡き妻が愛した服の共布を財布に収め今日も
街行く 東京 佐藤 一郎
自らに黒く斜線を引いているかばんの紐を斜
めにかけて 広島市 堀 眞希
割引のシールを貼られた心地する七十すぎて
時給が下がる 東京 池崎富実夫
金婚やタイや婚などちりばめて団地の祝宴錦
秋の候 横浜市 島田 和生
麻痺の妻車椅子に乗せて投票に行けば若きら
の顔一つなく 狭山市 若松 吉弘
吊り橋を渡り切らずに引き返す時間を守るツ
アーの乗客 大阪市 小熊 光子
シャクシャクシャク稲の切り株踏みつぶす寒
の秋を足から耳から 久留米市 春日 登

加藤 治郎 選

諍いはこれでおしまい雨上がり君から虹の
写真が届く 横浜市 井上 整
△評▽晴れやかな気持ちになる作品だ。お
そろくスマホで虹の写真が届いたのだろ
う。時間と風景を共有した雨上がりである。
麻生地のシャツを選んで愛猫と待っているこ
とも幸福だから 川崎市 新井 将
△評▽愛する人を待っている。自分の部屋
だろう。選んでに思いがこもっている。
どこへ向かえばよかったのかドーナツの穴から
欠けた月を見ている心臓 宮古島市 塩見 伴
満月のせいなのでしょう砂を吐き切ったしじ
みになっていた夢 津市 川原田明子
自販機のみかりが顔を照らして静かな水を
買おうか迷う 横須賀市 森久保りりか
木を撫でる優しい雨が不意に木を殴るみたい
なお別れでした 新座市 睦月くらげ
一年は年々短くなっていてあの世と目が合っ
ていくみたい 奈良市 古井さらさ
今日もまた最大限の出力で君に向かひて崩さ
れる 好き 名古屋市 中谷 有希
「一打ちし想い出に」。「つけました50年
後の同窓会で 古賀市 下田 緑
枯れかけの蓮花のことをゆるしてるわしがわ
たしをわたしと呼んで 八尾市 瀬戸口祐子

水原 紫苑 選

たてがみを真っ赤な風の芯にして馬はロゴス
を追いかけてゆく 加古川市 石村 まい
△評▽「真っ赤な風の芯」、それだけで異
空間が立ち上がる。馬がロゴスがこの世か
ら走り去る。
散りかけた薔薇の花びらそのままに時間が止
まる呼吸が止まる 甲府市 村田 一広
△評▽呼吸が止まったバラを花束にして、
いつかあなたにプレゼントしよう。
蠟梅の実を見てよりや水を乞ふ君を静かな楽
器と思ふ 東京 吉岡 耕大
刺されるとわかっていても手を伸ばす 薔薇
はあなたを形容できぬ 宝塚市 白川 楼瑠
戦前は13月まであったという 死後の匂ひの
マロングラッセ 熊本 飾 磨屋
眠りたいあなたとともにデボン紀のまばたき
ひとつずつ数えつつ 横浜市 安西 大樹
父も母も共犯だった無言にて解体されてゆく
タラバガニ 千葉市 芍 葉
たおやかに夜は折り畳まれてゆく、いつまで
過去の話をするの? 名古屋市 よ だ か
真剣に夢は雪だときみが言うつめたいた日々と
勇気の果てに 横浜市 永永 キヌ
折りたたみ傘を綺麗に畳んだら次はつばさに
なつてあげるね 東京 富見井高志

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから
投稿できます